

モジュール14-B1

心身の健康と生命

科目名

モジュールⅠ：人体の構造と機能
栄養とは何か
遺伝子と生命

科目責任者

辻 幸臣(医学科)
青柳 潔(医学科)
吉浦 孝一郎(医学科)

モジュールⅡ：スポーツ医学
きずなの脳科学
ライフサイクルと
メンタルヘルス
性と命(いのち)
老化と死

*安武 亨(医学科)
有賀 純(医学科)

小澤 寛樹(医学科)
三浦 清徳(医学科)
池松 和哉(医学科)

*モジュール責任者

趣旨

人の生活において、心と身体の健康は言うまでもなく大切なことです。

生命の尊さを再認識することも豊かな人生を送るために必要なことです。

それらのことを学びます。

主要内容

モジュールⅠ： 生命現象の基本的ことがらを学びます。

- 1) 分子レベルで覗く細胞の形とはたらき、
 - 2) 不思議な人体の構造と機能、
 - 3) 気にした方がいい食と栄養。
- こういった世界へ皆さんをいざないます。

モジュールⅡ： 生命や心身の健康に関連したことを学びます。

- 1) 生命の誕生と性、そして人の一生
 - 2) 人の老化と死
 - 3) 社会活動と脳の働き
 - 4) スポーツの科学的側面
 - 5) 人生や生活様式と心の関係
- これらに対し真摯に、楽しく向き合います。

皆さんへのメッセージ

健康・いのち・性・こころ・ヒトの一生・脳に関心のある方、
不思議な生命の世界、人間に興味がある方を歓迎します。

基本的な講義も行いますが、学生同士が協働して学びあうことも重視しています。

協調性に富み、好奇心豊かで、発想性・創造性を伸ばしたい人を求めます。

「健康と共生」

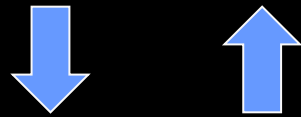
受講対象学部：
工学部、環境科学部

医学部保健学科：

宮原 春美

共生とはなにか：

病気や障害があってもなくても
その人がその人らしく生きることが
でき、社会全体が共に生きる



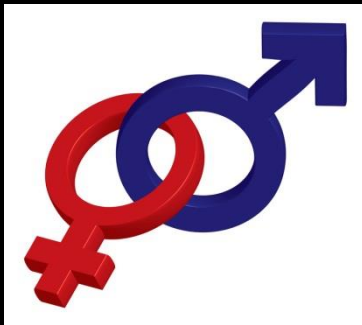
環境科学部、工学部での学習

具体的な学習内容

- ライフサイクルと健康
- 性と生
- ハンディキャップ
- 大学生の育児学
- 仕事と健康
- 老いと健康
- 青年期の健康・体力増進
- 障害体験と支援

必修

選択



昨年度の授業風景

「性と生」 ディベート風景



進行
審判

それでは否定派の
立論をお願いします。



先ほどの肯定派の
意見に対して質問があります

「大学生の育児学」

新聞紙を使って遊びを工夫する
おり紙でサンタクロースを作る！



かぶとを作ってよく遊びました。



出来上がった作品

「青年期の健康・体力増進」



握力測定



腹筋測定

地域で開催されている運動クラブにも参加しました。



学食で選んだ食事をもとに管理栄養士さんから
栄養バランスについて指導を受けました。

「障害体験と支援」

高齢者体験



目が見えにくく、視野も狭い
膝が曲がりくい……………



車いす体験



車いすで階段を上る



階段昇降機

全盲体験



介助も体験

片麻痺体験



右半身麻痺で、左手で食事

健康と共生

受け身の姿勢で受講するのではなく
アクティブに！！

B3. 美と健康

テーマ責任者： 真 鍋 義 孝

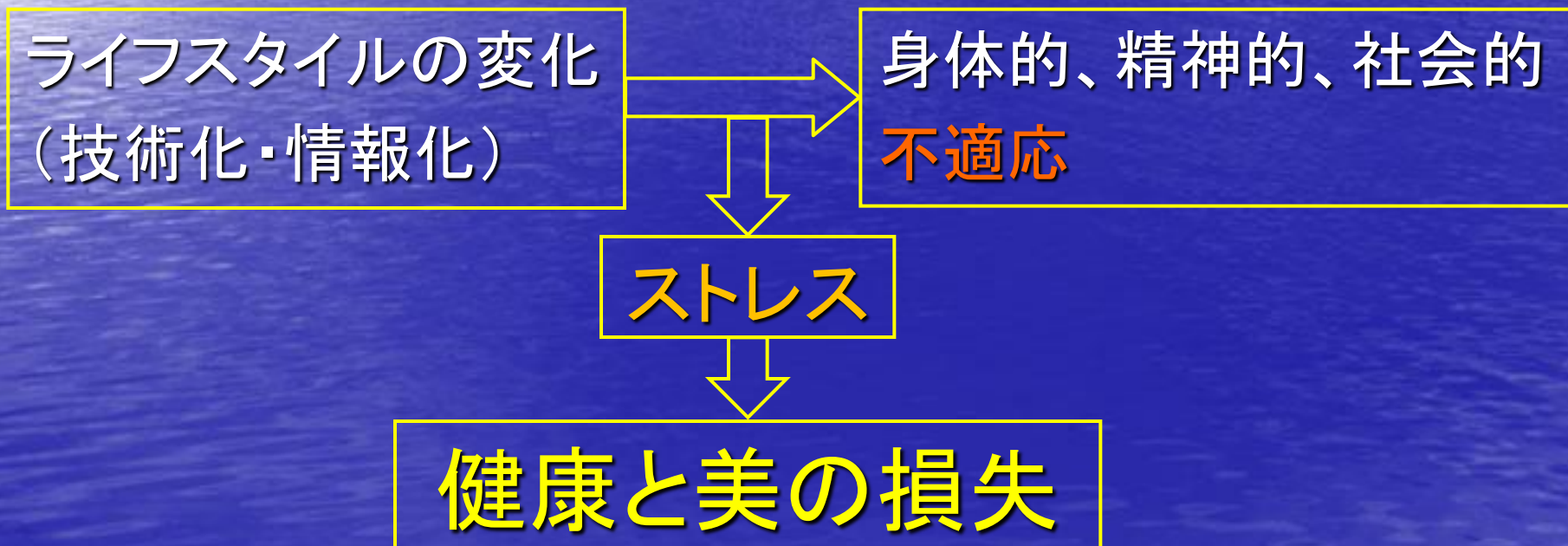
責任部局： 医歯薬(歯学系)

対象学部： 工・環境

健康 体や心が健やかで、身体的、精神的、社会的に調和のとれた状態。

美しさ 外見だけでなく体と心の健康があって成立。

現代社会の問題点



教育目標

健康と美を保持して、美しく健康に生きるために必要な知識を修得する

- ・モジュールⅠ＜基礎編＞

美と健康についての情報を広く理解する。
(生物学・人類学・物理化学的ストレス)

- ・モジュールⅡ＜応用編＞

健康を保つために必要な知識のうち、食に関連した口腔領域の機能・疾患・再建・審美について理解する。

科 目 名		担当者名	概 要
モジュール I	(I a) ヒトの生物学	根本 孝幸 岡元 邦彰 岡田 幸雄	ヒトを含めた生物を理解するための基礎的な知識や概念を学習する。特に遺伝の仕組み、細胞の代謝、神経系の機能を理解する。現代の科学的課題に関してアクティブラーニングにて学習する。
	(I b) 歯の進化と人類学	真鍋 義孝 加藤 克知	歯の進化や脊椎動物の進化を通して、人類に到る進化の過程を知り、人類進化の方向性を理解する。さらに、日本人の起源や人類学の研究法等についての知識を深める。
	(I c) ストレスと健康	中山 浩次 筑波 隆幸 松本 逸郎	ヒトを取り巻く環境からの物理化学的ストレスについて学習するとともに生命体としてそれらのストレスにどのように対処し、克服しているかについて理解する。

科目名	担当者名	概要
モジュールⅡ	(Ⅱa) 先端医療 ・再生医療	朝比奈 泉 縣 秀樹 住田 吉慶 再生医療の基礎となる生物の基本的構成・発生のしくみ、幹細胞について理解し実際に行われている先端医療・再生医療についての知識を深める。
	(Ⅱb) 食の科学	斎藤 俊行 北村 雅保 宮崎 敏博 久松 徳子 食することは生きる事そのものである。その入り口である「口腔と歯」は生きる事の入り口である。食に関連した人体の構造、機能とその異常を示す疾患について、また栄養学的、予防医学的な観点から教養を深める。
	(Ⅱc) 口と疾患	吉村 篤利 黒木 唯文 柳口 嘉治郎 顎関節障害、咀嚼障害、齲蝕、歯周病などの口の疾患の原因と症状、治療法、予防法について理解し、口の健康維持について必要な知識を健康増進に活かす。
	(Ⅱd) 口と健康	村田 比呂司 鮎瀬 卓郎 山田 志津香 小山 善哉 超高齢社会に対応する義歯による口腔機能の回復や、睡眠や呼吸機能障害の原因や診断・治療法について学ぶ。また、生涯健康で美しい白い歯を維持する為の知識を習得する。東日本大震災での歯科医療支援活動についての意見交換も行う。
	(Ⅱe) 審美	渡邊 郁哉 針貝 綾 田上 直美 池田 毅 美とは何か、美学について美の歴史、美の表現についての理解を深め、実際の美に関わる医療についてどのようなことが執り行われているのかを学ぶことによって、QOLの向上に役立てる。

学生の皆さんへ

前提知識は全く問いません。

「美」と「健康」に広い興味や関心のある方、加えて歯科医療全般に興味のある方大歓迎です。

細胞、生物(ヒト)、進化、ストレス、先進医療、老化、審美に関わる基礎的知識から専門(臨床)的知識の習得を目指して、担当の教員たちとコミュニケーションを図りつつ、他の学生さんと協働して学習を進めていくことに関心のある方は、ぜひ受講してください。

B4. 安全で安心できる社会

	多文化、教育、経済、薬学、 水産		医学部、歯学部、工学部、 環境科学部
A1	先進医学と現代社会	B1	心身の健康と生命
A2	生命と薬	B2	健康と共生
A3	安全で安心できる社会	B3	美と健康
A4	教育と社会	B4	安全で安心できる社会
A5	現代経済と企業活動	B5	教育と社会
A6	環境問題を考える	B6	現代の教養
A7	情報社会とコンピューティング	B7	現代経済と企業活動
A8	グローバル社会へのパスポート	B8	環境問題を考える
A9	コミュニケーション基礎講座	B9	ことばと文化
A10	核兵器のない世界を目指して	B10	数理と自然科学のススメ
A11	環境マネジメント	B11	人の暮らしと海洋生物資源
A12	暮らしの中の科学	B12	世界を知り、日本を知る
A13	世界を知り、日本を知る		(夜間)安全で安心できる社会

3 安全で安心できる社会（全ての学部）

趣 旨

- ・今日、テロ、医療事故、自然災害、原子力、メディア・スクラム、モラルハザード等々、日常を取り巻く危険や不安が私たちの回りには蔓延しています。このような危険や不安に、どのように対処していけばいいのか、何をなすべきか、どう考えるべきか、そして、何をしたらいけないのか、について学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養することを目的としています。
- ・本授業では、そもそも、**安全とは何か、安心とは何かについて、**
 - ◆ 人の生存を脅かす問題からの安全・安心
（健康と医療の安全・安心）
 - ◆ 人為的な脅威からの安全・安心
（リスク社会と社会科学）
 - ◆ 災害・事故からの社会システムの安全・安心
（科学と技術の安全・安心）の観点から検討し、理解を深めることを教育目標としています。
- ・安全は与えられるものではなく、自ら努力をして作り上げることが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できるということを理解することを教育目標としています。

安全・安心を考える

安全・安心は社会性のある重要な問題です。また、同様に身近な問題です。

たとえば、受験勉強で。

一生懸命 勉強 : 受験に対する情報・理解ない。 → **不 安**

レベルの評価、希望大学との比較・判定。

先生方や保護者の方と相談。 最後は自分で決定。

安全・安心へ

社会人として取り組む安全・安心は。 情報を持ち、理解し行動をする。

安全・安心は「保つ」でなく「作る」。

医療や社会科学や技術の分野でどのようにやられるかを知り、
取り組んだらよいかを考えてもらいます。

到達目標

◆ 健康と医療の安全・安心

放射線と感染症の健康リスクを正しく理解し、説明できる

◆ リスク社会と社会科学

リスク社会の不安や不確実性の克服に社会科学がどのように応え、応えようとしているかを、経済、経営、法の側面から理解できる

◆ 科学と技術の安全・安心

科学技術の発展の産物であるシステムの中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得し、説明することができる

・関心をもった安全・安心領域(健康・医療、社会科学、科学と技術)の知識と技能を活用できる → 科目Ⅱa～Ⅱf

・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす (全学モジュール共通目標)

・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける (全学モジュール共通目標)

科 目 名		担当者名	概 要	キーワード
モジュール	健康と医療 の安全・安心	松田尚樹 中山守雄 大沢一貴 山中仁木	健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。	家族、女性、 子供、遺伝、 遺伝子組換え、 副作用、 薬害
	リスク社会 と社会科学	須齋正幸	産業社会の進展による生活水準の上昇の一方で進行したリスク社会の不安や不確実性の克服に社会科学がどのように応え、応えようとしているかを経済、経営、法の側面から照射し、学問の現段階を理解する。	証券市場・ 金融リスク 管理・金融 工学・確率 論・統計学
	科学と技術 の安全・安心	林秀千人 高橋和雄 田中俊幸 久保 隆	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。	科学技術の 安全、シス テムの安全 と安心、安 全文化と安 心

科 目 名		担当者名	概 要	キーワード
モジュール二	破壊事故とヒューマンファクタ	勝田 順一	“ものづくり”は、建造するものが壊れず、かつ、要求される性能を発揮できる必要がある。ところが、実際には、様々な“もの”が様々な原因で壊れ、時には悲惨な事故となることがある。 講義では、“ものづくり”の成果や破壊事故の実情を講義とビデオにより紹介する。また、“もの”が壊れる条件についてわかりやすく説明する。さらに、近年、事故発生に人のミスが関わっているとの多くの指摘がある。ヒューマン・エラーについて体験し、人のミスを防ぐための安全確保に関する考え方について紹介することを目的とする。。	事態管理、リスク管理、マスメディア
	医療介護の安全と安心	林田 秀明	実際の医療や介護の現場での取り組みを通して、人の生存や生活を脅かす問題やその対策を自ら考え、WHOが定義した健康(身体的健康、心理的健康、社会的健康、霊的健康)を理解する。ここでは、頻度の高い高度医療、遺伝病、誤嚥性肺炎と口腔ケア、医療過誤対策、介護負担と虐待などをテーマとする。	高度医療、医療過誤、遺伝病、口腔ケア、介護、虐待
	社会科学からみた安全・安心	西村 宣彦	国際関係、政府、情報、金融、法、企業と産業、消費、勤労等経済社会の各局面で現代社会のリスクに対する脆弱さを克服するために何をなし得るのかの解決法をLTDなどの新しい授業方法等を通して考えていくことで、経済学、経営学、法学の思考法からリスク、不安、安全、安心を考えていく。	労働災害、社会保障、法令遵守 人口爆発、国際競争
	工学から見た安全安心(エネルギーと資源)	金丸 邦康 桃木 悟 山口 朝彦	東日本大震災後の日本のエネルギーのあり方を考えるために、IPCCの報告書をめぐる環境問題の捉えかた、日本のエネルギー事情、資源(食料、化石燃料、レアメタル、鉄など)の今後、国民生活とエネルギー需給を、安全の問題を踏まえてテーマとする。	環境問題、化石燃料、原子力エネルギーの質、食料生産
	公害環境問題と社会	戸田 清	水俣病、カネミ油症、原発事故、遺伝子組み換え作物などを例として、公害・環境問題における政府、企業、学者、市民などがこれまでどのように対応してきたかを振り返り、これからの社会におけるリスク、不安、安全、安心を考えていく。環境社会学、生物学などの視点からみていきたい。	公害病、認定基準、安全神話、予防原則、情報公開

学生の皆さんへのメッセージ

2011.3.11東北地方太平洋沖地震による未曾有の東日本大震災では、「想定外」という言葉が何度となく聞き及び、政治も経済も科学も、最後は音楽、文学、宗教が生み出されました。

地球上の力、メディアが定し、それに不安を想を払拭し、安全は私たちの使命ではないかと思えます。社会について、学生と教員とともに考えていきましょう。

みなさんは
安全安心を
保つのでなく
作るのだ

教育と社会（14-B5）

対象：医・歯・工・環

2014年度・モジュールテーマ説明会・資料

山岸 賢一郎
（長崎大学教育学部）

「教育と社会」は、こんな方にお奨めです

- 教員免許状の取得を希望する、工学部の方
⇒ 必ず受講してください
- 「教育」や「教職」に、強い関心のある方
⇒ お奨めです

「教育と社会」の構成 ... モジュール I

モジュール I (3科目とも必修): 1年・後期

教育原理論 ... 免許状取得に必須

教育心理 ... (同上)

教育行政・制度論 ... (同上)

モジュール I では、教育に関する基礎的事項について、たとえば、教育の理念や歴史、児童生徒の心理、学校教育に関する諸制度、等々について学びます。

※ なお、各科目について詳しくは、『モジュール
テーマガイドブック』の58・59頁を参照。

「教育と社会」の構成 ... モジュールⅡ

モジュールⅡ（3科目を選択）： 2年・前後期

教育相談（2クラス） ... 免許状取得に必須

文学と社会

身のまわりの科学

芸術

環境と社会

モジュールⅡでは、上記の科目から興味に応じて3科目を選択して（ただし「教育相談」は免許状取得に必須）、教育と社会に関わる**応用的事項**を学びます。

教員免許状の取得を希望する方へ：幾つか注意

- 簡単に免許状を取得できる、わけではない。
 - モジュール科目以外の単位も必要（教養教育に関する単位は、『教養教育 学生便覧』17頁を参照）。
- 学部によって、取得可能な免許状や、取得までの道のりは、異なる。
 - 各学部で行われる説明会等に必ず参加し、その説明をしっかりと理解してください。
- 取得したら必ず先生になれる、わけではない。
 - いわゆる「正規の」「学校の先生」になるためには、各自治体が実施する「教員採用試験」に合格する、等の必要があります。

「教育」や「教職」に強い関心がある方へ

- **受講を歓迎します。**
 - あなたの「興味」を満たすような「発見」が、あるかもしれません。
- **ただし、次の点は、ご了承ください。**
 - すなわち、**一部の科目**（とりわけ、免許状の取得に必須な科目）においては、**教員免許状の取得のために必要となる事項**を、授業の際に取り扱わないわけにはいきません。

- 教員免許状の取得を希望する、工学部の方
⇒ 必ず受講してください
- 「教育」や「教職」に、強い関心のある方
⇒ お奨めです

B 6 「現代の教養」

教育学部 永田 聖二

全学モジュール科目案内

テーマ名	14-B6 現代の教養		
テーマ責任者	永田 聖二	責任部局	教育学部
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
趣 旨	21 世紀のグローバル社会を生きる人々には、たんに自己の専門分野の知識を深めるだけではなく、ひろく人文・社会科学や自然科学に関係する基礎知識や研究方法を身につけ、さらに、芸術を理解・表現できるような、真の意味での教養人であることが要求されます。 本モジュールでは、モジュールⅠの各科目で人文科学・社会科学・自然科学の基礎知識や研究方法、芸術の理解・表現方法を修得したのち、各自の関心に応じて、それぞれの分野でより深い知識や研究態度を身につけることができるように、モジュールⅡの科目を選択できるようになっています。		
到達目標	・人間の生活や文化に関係する諸問題を人文・社会科学の方法を利用して解明できる：Ⅰ「文化と社会」 ・生物の生活や行動に関して学習した基礎知識を私達の生活に応用できる：Ⅰ「自然の科学」 ・芸術を理解・表現できる：Ⅰ「芸術の世界」 ・モジュールⅠで修得した基礎知識や方法を利用して、それぞれの分野に関係するより深い理解と研究態度を身につける：モジュールⅡの各科目 ・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連科目の達成をめざす ・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける		
学生の皆さんへのメッセージ	特定の知識や観点に偏らず、ものごとに対する広範な知識とそれを考察するための多面的な研究態度を身につけ、現代を生きる教養人をめざしてください。		

	科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
モジュールⅠ	文化と社会	勝俣 隆 飯塚 知敬 福留 真紀	人文科学・社会科学の両面から、人間の生活と文化に関する諸問題を考察する。	文学、 哲学・倫理学 日本史
	自然の科学	赤羽 良一	「フリーラジカル」の化学および「酸素」の化学についてその基礎を学びながら、物質・生命・環境について考える。	物質、フリーラジカル、酸素、環境と生命
	芸術の世界	三上 次郎	現代人の教養として、芸術を理解・表現するための基礎を学ぶ。	音楽史 美術史
モジュールⅡ	ことばの世界	山本 建雄	文学を題材にして、現代に生きる人間の諸問題を考察する。	文学
	人間と社会	永田 聖二	わたしたちが生活している資本主義経済システムの機構を理論的に考察する。	スミス、 リカードウ、 マルクス、 スラッファ
	暮らしと科学	木村 彰孝	わたしたちの暮らしのなかで生じる諸問題を考察する。	衣食住に関わる日常生活 教育、人間関係 健康、環境
	数と自然	島袋 修	ものごとを論理的に考察・推論するための数理的な手法を学ぶ。	数学、 代数学、 線形代数学
	音楽	宮下 茂	声楽曲及びオペラ作品等を取り上げ、音楽作品を鑑賞・理解するための基礎を学ぶ。	声楽、 オペラ
	美術	佐藤 敬助	古典絵画を取り上げ、美術作品を鑑賞するための基礎的な手法を学ぶ。	美術史、 西洋美術、 鑑賞

現代経済と企業活動

科目担当者

経済学部教授 吉田高文

ほか経済学部教員7人

経済は「経国済民」

- 1 高い志をもって学んでほしい。
- 2 経済の知識や経済学の考え方は必要。
- 3 将来「経営者」「管理者」になったときに必ず役に立つ。
- 4 「経済学」「経営学」は面白い。

教員紹介

- 1 工藤 健 モジュールⅠ担当科目:経済活動と社会
専門は国際経済学。長崎大学大学院国際健康開発研究科でも教えている。
- 2 吉田高文 モジュールⅠ担当科目:企業の仕組みと行動
専門は経営財務論。担当科目では経済学全般と経営学を教える。髪が長い。
- 3 藤田泰昌 モジュールⅠ担当科目:経済政策と公共部門
専門は国際関係論。国際政治に関心がある人を歓迎。優しい先生。
- 4 青山 繁 モジュールⅡ担当科目:国際社会と日本経済
専門は開発経済学。元大蔵省のエリート官僚。鋭い分析と的確な批評。
- 5 谷口眞司 モジュールⅡ担当科目:地域社会と日本経済
専門は国際協力機構論。財務省からの出向教員。子煩悩。
- 6 土橋力也 モジュールⅡ担当科目:企業行動と戦略
専門は経営戦略論。関西弁で話す気さくな先生。新婚。
- 7 張 笑男 モジュールⅡ担当科目:社会制度と経済活動
専門は企業法。13歳で来日し日本語ぺらぺら。若い法律学者。ちなみに女性。
- 8 鈴木 斉 モジュールⅡ担当科目:経営情報と会計情報
専門は情報処理。情報技術系に詳しいお助けマン。

※わからないことはテーマ責任者の吉田高文まで
問い合わせ先 taka-yo@nagasaki-u.ac.jp

環境問題を考える

対象学部 医歯工

環境科学部学生は受講できません。

主旨

- 環境に関連した科目群を題材として、考える訓練をし、様々な視点や立場からの解決策を探る

講義の方式

- アクティブラーニング方式での講義を行う科目が多いです。
- グループワークがあります。
- 欠席や予習してこなかったりすると、グループメンバーに迷惑がかかります。

地球温暖化を考える

高尾 雄二
河本 和明
冨塚 明
和達 容子

温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。

温室効果，
地球温暖化，エネルギー収支，化石燃料，各国の立場

水環境を考える

長江 真樹
仲山 英樹

上水と下水に関連した種々の水処理技術について学ぶ。また、水に関連した種々の環境問題の現状を理解する。また、植物などを使った水質浄化の実例を学ぶとともに、人の生活が水辺の生き物に与える影響についても学ぶ。そして、水を中心に人を含めてさまざまな生き物が多様で密接な関わりを持つことを考える。

上水，下水，水処理技術，水辺の動植物

環境政策を考える

西久保 裕彦

地球環境問題などを解決し持続可能な社会を実現するための政策および法の現状を、国内および国際的視点から、事例を交えて学び、問題点などを考える。また、様々な問題解決のアプローチについて、それぞれの立場で考えることにより、問題解決能力の素養を養う。

環境法，環境政策

環境と生物応答	田井村 明博 山下 樹三裕 岡田 二郎	生物が自然環境の変化に対して内部環境を維持する仕組みについて学ぶ。生体が外部環境から受ける刺激に対する生体内環境の応答について、感覚系による環境センサーとしての機能や天然物質・化学物質による有害作用や毒性発現の作用機序、さらに、暑熱・寒冷環境における環境適応反応について学び、自然環境と生物との共生について理解を深める。	ホメオスタシス(恒常性), 外界刺激応答, 環境ホルモン
廃棄物と土壌・地下水汚染	中川 啓 西山 雅也 朝倉 宏	廃棄物の処理とリサイクルに関する基本的な法制度・計画と、各種処理技術を学び、問題点と理想像、そのギャップを埋める手法・計画などを考える。また水資源としての地下水利用、土壌・地下水汚染の現状、汚染の挙動解析法や対策技術などについて学ぶ。	廃棄物, 地下水汚染, 土壌汚染, 対策技術
藻類の多様性	飯間 雅文	生命の起源から現在に至る藻類の進化の過程の概要を学ぶ。地球生態系における最初の生産者であり、陸上植物の祖先である藻類の重要性を考え、理解する。絶滅危惧種藻類についても紹介し、人類が藻類と共生して行かねばならないことを考える。	藻類, 多様性, 絶滅危惧種, 共生
海洋環境と化学物質	石橋 郁人 荒川 修 高谷 智裕	海洋の生物から化学物質を分離する方法、化学物質の構造を解析する方法、微量成分の量や組成を分析する方法などの機器分析化学の基本原則を習得し、さらに、魚介類の毒などの海洋の生理活性物質と人間生活との関係について学ぶ。	海洋の生理活性物質, 分離・精製法, 構造解析法
未定		新教員による	

ことばと文化とコミュニケーション

2014年4月

ゆう きょんみ

(劉 卿美)



長崎大学の教育目標

国際社会でのリーダーの育成



国際社会人として求められる必須能力

コミュニケーション力

良き聴き手（聴く力）
良き話し手（話す力）

多文化理解能力

良き隣人（知る力）

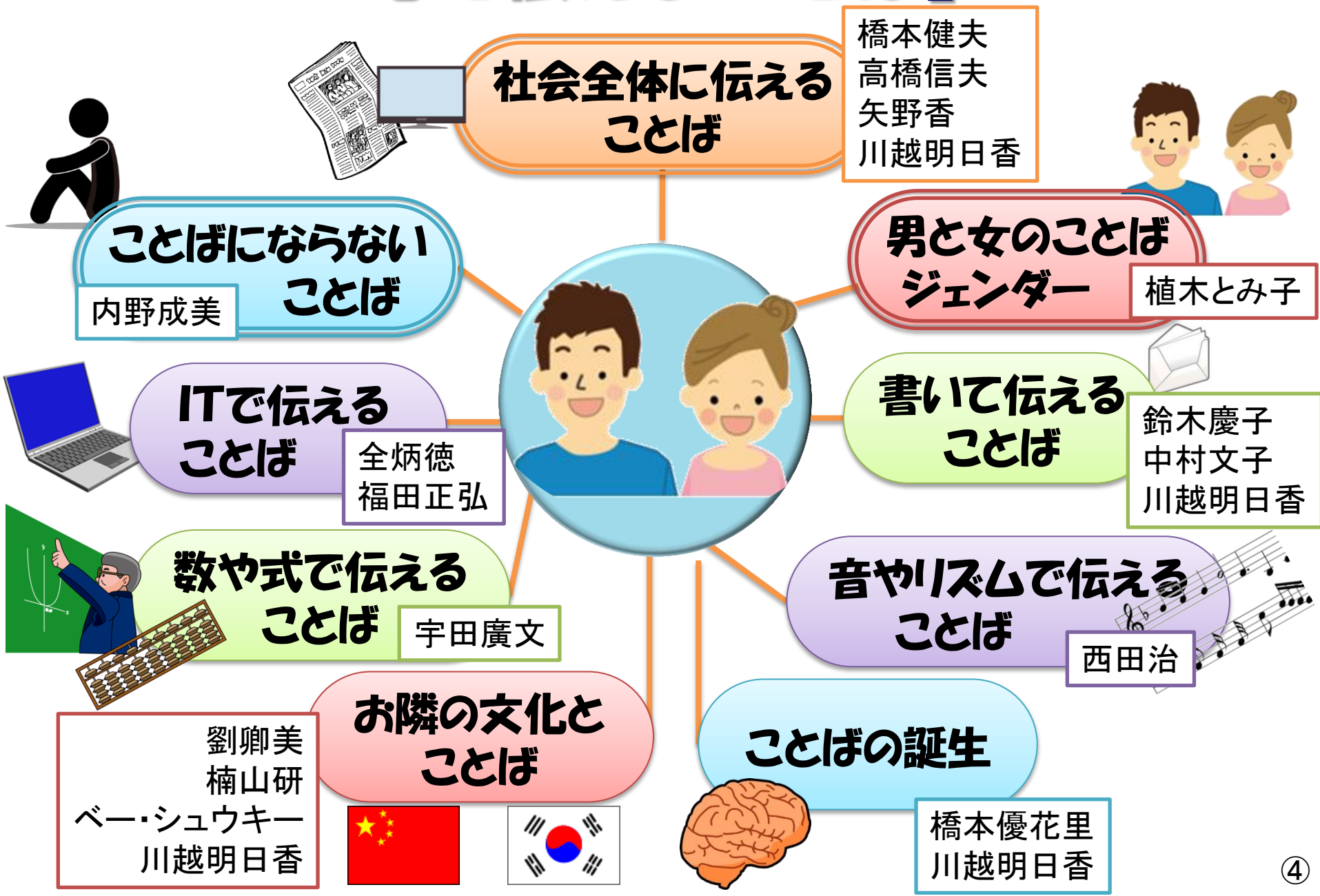
協調・協働能力

良き友人（働きかける力）
（前に進む力）

心を込めた「ことば」の活用

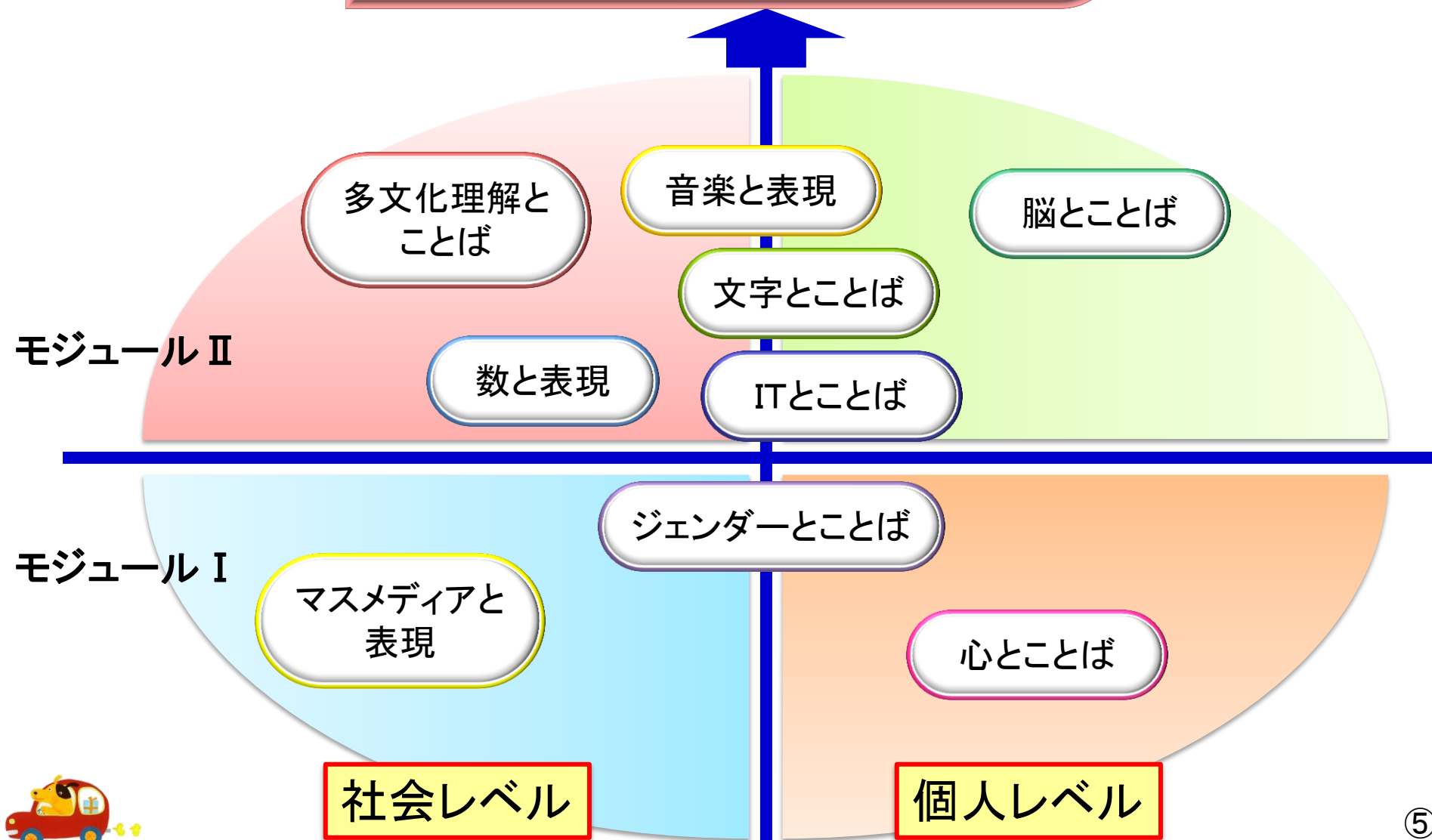


心を伝える「ことば」

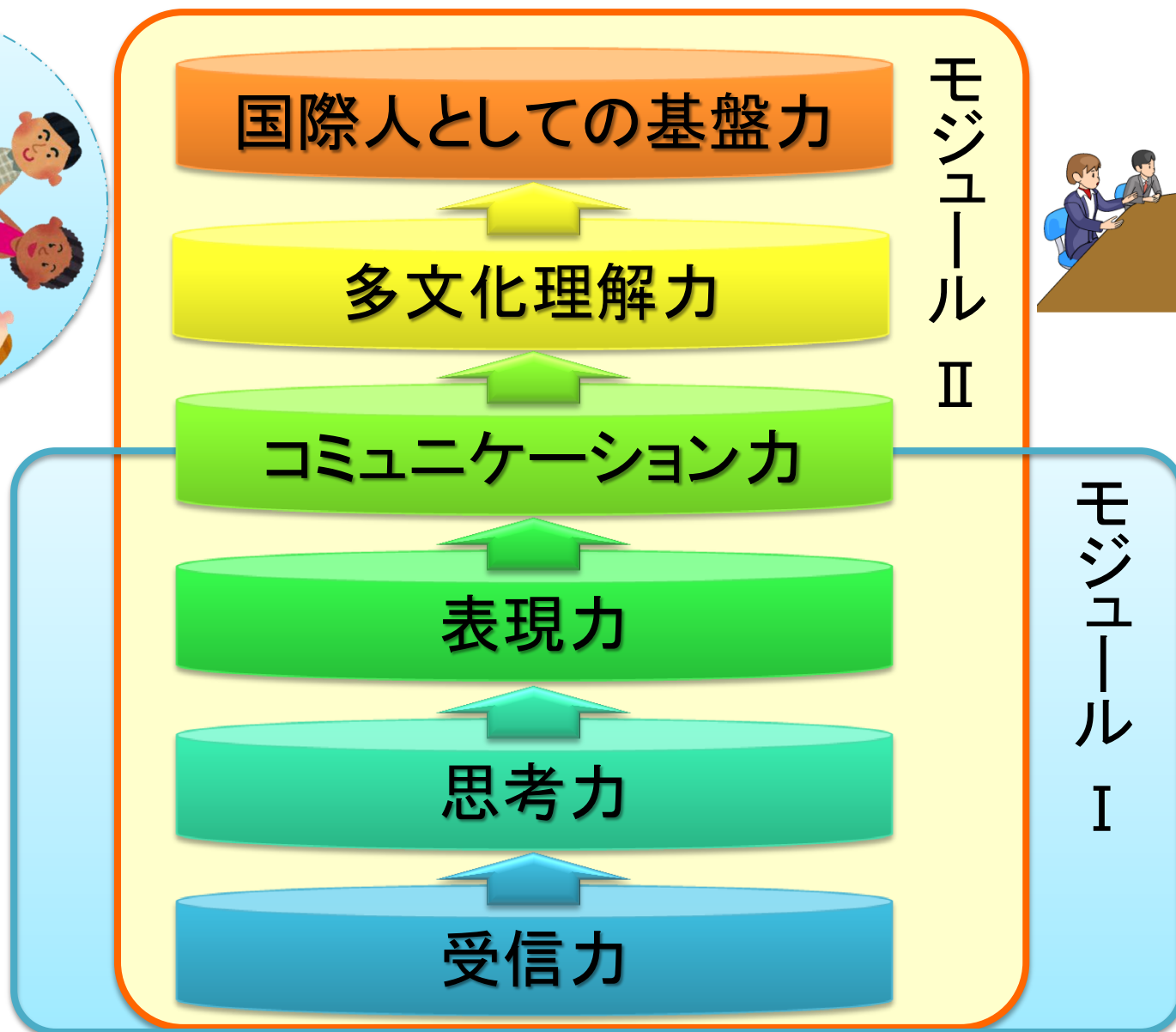


モジュール科目の配置

ことば(文化)の理解



「ことばと文化」を通して培う力



暮らしの中の科学

B10

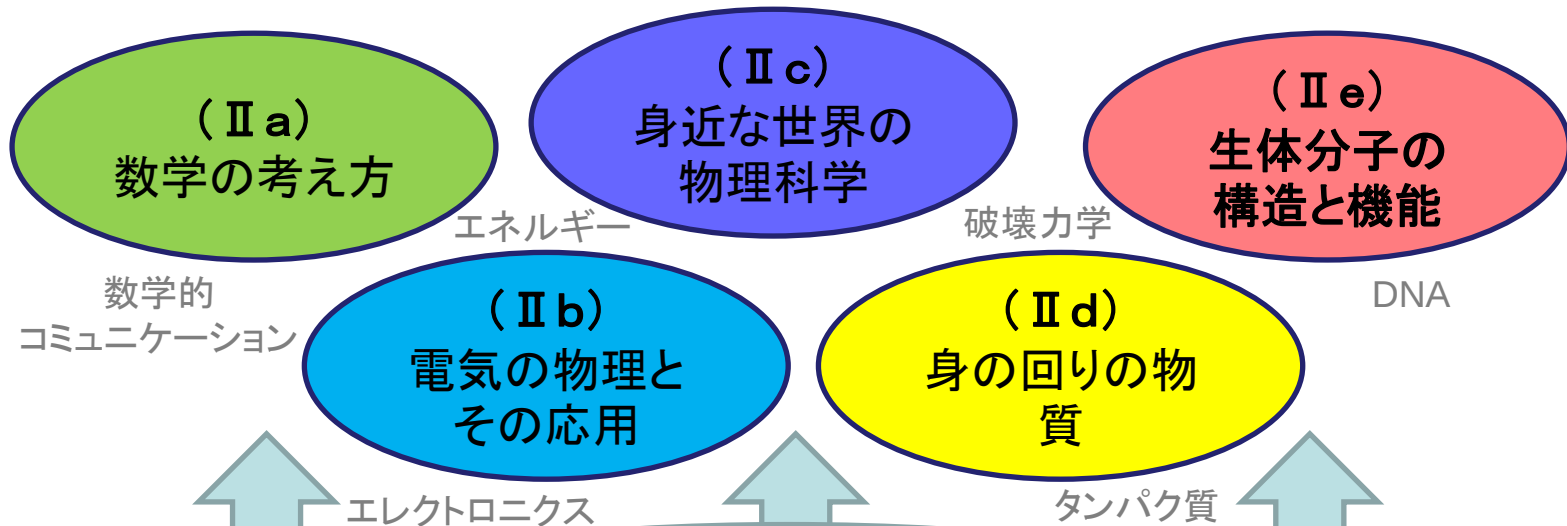
対象学部: 医学部 歯学部 環境科学部
工学部は受講できません

長崎大学大学院工学研究科
坂口大作
(daisaku@nagasaki-u.ac.jp)

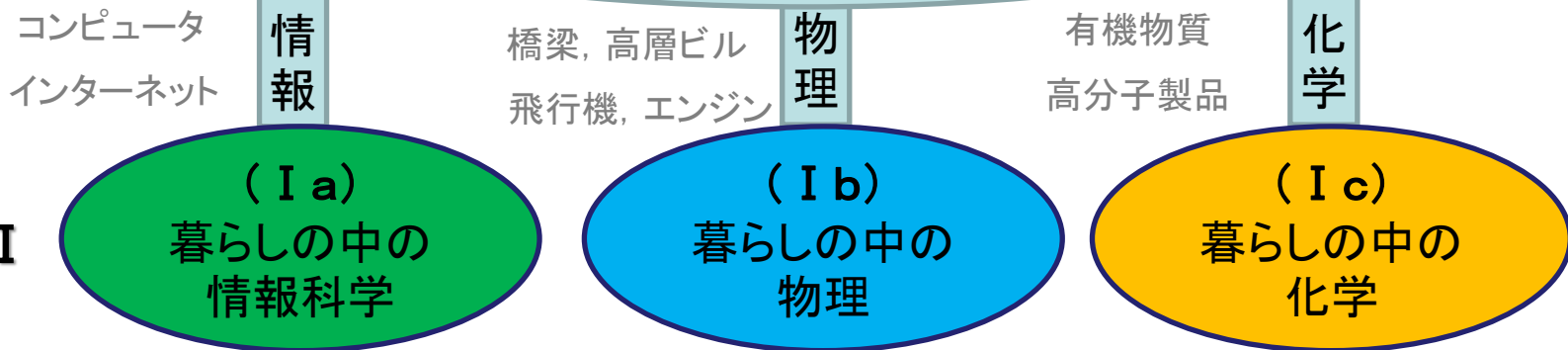
目標

- 本テーマでは、高校において修得しておくべき数理科学と自然科学の内容を、大学(での)教育の視点から多面的に意味づけ再整理した上で、科学的な思考法と方法論の基礎を学び、身の回りの社会や先端科学技術と数理・自然科学との関わりを理解することを目的および教育目標としています。

モジュールⅡ



モジュールⅠ



質問は daisaku@nagasaki-u.ac.jp まで

数学、物理、化学が得意な人

- ・ 高校で習った、数学、物理、化学が、身の回りでどのように使われているかが分かります。

数学、物理、化学が苦手な人

- ・ 数学、物理、化学が、身の回りでどのように使われているかが分かれば、数理・自然科学に興味が湧いてくるでしょう。

医療機器や環境機器などのしくみが理解できる

学生の皆さんへのメッセージ

- 数学や物理、化学、生命に興味がある方を歓迎します。
- 共通ルール(定義)はしっかり覚える必要がありますが、それ以上の暗記は必要ありません。
- このモジュールを受講すれば、身の回りの“なんでだろう”が解決します！



お待ちしております

質問は daisaku@nagasaki-u.ac.jp まで

人の暮らしと海洋生物資源

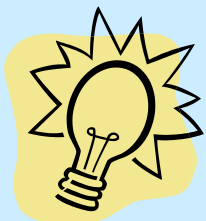
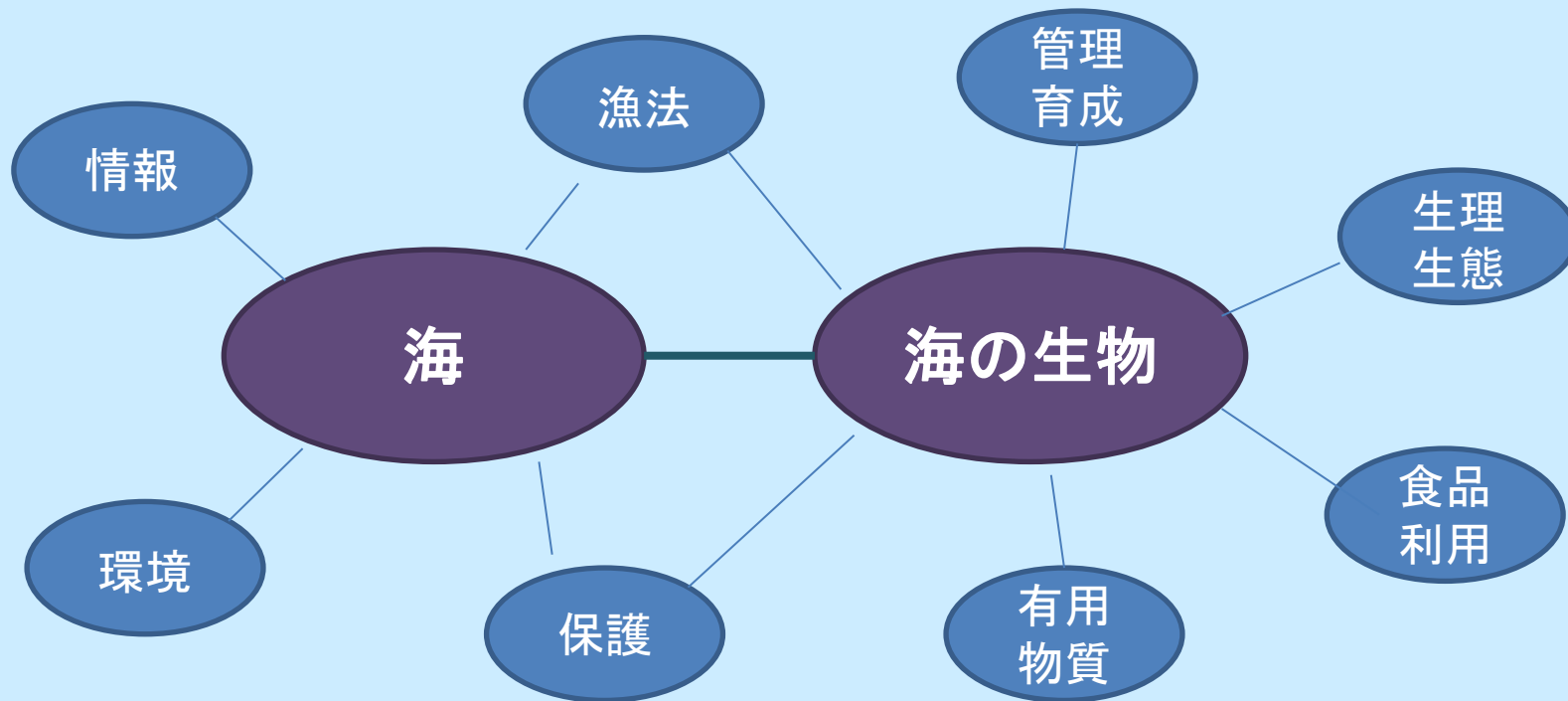
テーマ責任者

かめだ かずひこ

亀田 和彦（水産学部）



環境と調和した持続可能な社会を実現するために



海と海の生物を知る
海の環境を管理・保全する
海の生物資源を適正に利用する

モジュールⅠ 科目

モジュールⅡ 科目を理解するための基礎知識の習得

- (Ia) 海の生物と多様性（海洋生物学の基礎）
- (Ib) 海洋生物資源の生化学（生命現象を司る分子の化学）
- (Ic) 海とは何か？～海洋生態系の現状と課題～
（海洋環境と海洋生態系との関連性）

“海と海の生物を知る”の部分に相当



モジュールⅡ科目

海の環境を管理・保全し、海の生物資源を適正に利用するための原理や具体的方策について学ぶ

(IIa) 生物から見た水産業

海洋生物の行動・生態の解析及び効率的な漁獲への応用

(IIb) 人から見た水産業

効率的に漁獲し価値形成するための道具や方策

(IIc) 海洋の生物と科学

海洋生物を効率的に生産し培養するための原理や技術

(IId) 海洋食料資源の応用

海洋生物資源を食品として応用するための方法や諸問題

(IIe) 海洋環境と保全

底生生物・プランクトン・付着生物の観点から海洋環境問題を考える



2014年4月17日

全学モジュール説明会用資料

世界を知り、日本を知る

趣 旨

グローバル化の進展

→「**世界を知る**」必要に迫られている。

→「**日本（と日本人）を知る**」ことをわれわれに求める。

本モジュールでは

空間軸：日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界

視点：文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流

→**多様な他者**と同時に**多様な自己**をも理解することをめざす。

→様々な**多文化状況に適応する素養と思考力**を身につける。

到達目標

- それぞれのテーマに関する基礎的知識を習得する（全科目）。
- グローバルな視点およびグローバルな視点に立って、多様な世界と日本を理解する（全科目）。
- 世界や日本における多文化状況に関心を持ち、その状況が成立した理由（条件）と経緯（歴史）、それを維持する目的や意義を理解する（全科目）。
- グローバル化の進展に伴って生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につける（全科目）。
- 多様な言語的・文化的背景を持つ人々と協働することができる（全科目）。
- 以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける（全学モジュール共通目標）

科目編成

モジュール I

科目名	担当者名	キーワード
前近代の日本と世界	木村直樹	日本史、長崎学、技術と社会、対外交流
近現代のアジアと日本	首藤明和	グローバリゼーション、家族、コミュニティ、市民社会、民族、共生社会
人々の暮らしから見る現代日本	才津祐美子	民俗学、日本、地域、文化、暮らし

モジュールⅡ

科目名	担当者名	キーワード
世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ	葉柳和則、増田研、見原礼子、小松悟	多言語・多文化国家、EUのトルコ系住民、グローバル化と地域、経済発展と貧困・格差、本質主義
世界と日本の文化交流	野上 建紀	陶磁器、文化交流、水中考古学
芸術で見る世界と日本	グラジディア ン マリア	メディア、表象、大衆文化、日本、西欧、比較分析
アジアにおける人の移動と日本	賽漢卓娜	移民、エスニシティ、マイノリティとマジョリティ、社会的包摂と排除、多民族・多文化共生
宗教から見た日本	滝澤 克彦	宗教文化、風土、組織宗教、民間信仰、スピリチュアリティ
日本のことばと文芸	中島 貴奈	日本文学、日中比較、中国文学

学生の皆さんへのメッセージ

社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働く。

「世界を知り、日本を知る」



「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」

＝知的な営み／必要不可欠な能力

本モジュールでぜひ身につけて下さい！